

防虫科学

季刊

第 41 卷—II

原 著

10. ゴミ処理場におけるイエバエの殺虫剤感受性について
林 兎史・篠永 哲・加納六郎……57
11. 日本脳炎媒介蚊防除のために散布した殺虫剤の動向
前田 理・宮田 正・木多八郎・斎藤哲夫……60
12. 幼若ホルモン同族体, Altozar の Mustard Aphid に対する効果
O. S. BINDRA, D. SINGH……65
13. *Ptyelus sexvittatus* Walker (Cercopidae, Homoptera) の細胞内微生物の
培養とその抗細菌剤の効果
Absar M. KHAN……67
14. ツノロウムシ越冬成虫にたいする幼若ホルモン様活性物質 methoprene の
生理活性
亀井正治・浅野昌司……71
15. ネズミの食性に関する研究 III. 生息場所を異にしたドブネズミの食物嗜好性
池田安之助・田原雄一郎・湯山洋介・永沼清久……75
16. Threonine のイエバエ卵巣発育促進作用
河野義明……78
- 抄 録 ……82

財団法人 防虫科学研究所

京 都 大 学 内

昭 和 5 1 年 5 月

防 虫 科 学

編 集 委 員

主 幹 武 居 三 吉

藤 田 稔 夫 深 海 浩 井 上 雄 三 石 井 象 二 郎

中 島 稔 高 橋 史 樹 高 橋 正 三 内 田 俊 郎

投 稿 規 定

1. 防虫科学に関する研究論文、綜説ならば誰でも投稿できる。ただし原稿の取捨は編集委員会できめる。また原稿の字句については加除修正を行なうことがある。
2. 報文は邦文または欧文とし、邦文には欧文の、欧文には邦文の要約を添える。表題、著者名および所属機関名などは邦文・欧文両者を併記する。
3. 邦文原稿は原則としてA4判横書原稿用紙(400字詰)を用いる。欧文はタイプライター用紙にタイプライターでダブルスペースに打つ。邦文原稿の写真、表および図の説明は欧文とする。
4. 邦文は平かな、新かな使いとし、欧語音読には片かなを用いる。ただし物質名、人名などは欧文のままとする。図は白紙または青線方眼紙にていねいに墨書し、原稿とは別紙とする。
5. 動植物の学名の下には_____を付ける(例: Chilo suppressalis イタリックとなる)。和名は片かなを用いる。数字はすべてアラビア数字を用い、数量の単位はメートル法による。単位および術語の略字は本既刊誌を参照されたい。
6. 句読点、カッコは1画を与える。ハイフンは区画の罫線の上に明瞭に書く。本文中の引用文献番号はカッコを付けて肩に小さく書く。文献は報文の最後に通し番号の順に列記し、著者名、雑誌名(書名)、巻、頁、年号の順に記し、巻数には~~~~~を付ける(例: (1) Stevenson E. and G. R. Wyatt : Arch. Biochem. Biophys. 99, 65, 1966)。邦文雑誌名は日本化学総覧、欧文雑誌名は Chemical Abstracts, Biological Abstracts の規定の略名に従う。
7. 校正は原則として初校に限り著者が行なう。
8. 原稿の送付には送状を付し、発送年月日、連絡先、原稿枚数、写真および図・表数、別刷希望数などを記入する。原稿の郵送は書留とし、校正は速達とする。
投稿その他の編集に関する連絡は下記にされたい。

606 京都市左京区北白川 京都大学農学部
農薬研究施設 石井象二郎 (075) 751-2111 内 6 3 0 5

賛助会員

小林政株式会社
三共株式会社
住友化学工業株式会社

大日本除虫菊株式会社
武田薬品工業株式会社

維持会員

アース製薬株式会社
宇部興産株式会社
大阪化成株式会社
大塚製薬株式会社
ソエコン課
科研化学株式会社
化研工業株式会社
花王石鹼株式会社
協和醗酵工業株式会社
キング化学株式会社
クミアイ化学工業株式会社
呉羽化学工業株式会社
サンケイ化学株式会社
塩野義製薬株式会社
大栄化学工業株式会社
大正製薬株式会社
高砂香料工業株式会社
株式会社立石春洋堂

トモノ農薬株式会社
長岡駆虫剤製造株式会社
長瀬産業株式会社
日産化学工業株式会社
日本化薬株式会社
日本曹達株式会社
日本特殊農薬製造株式会社
日本農薬株式会社
フマキラー株式会社
北興化学工業株式会社
三笠化学工業株式会社
三菱瓦斯化学株式会社
八洲化学工業株式会社
株式会社柳本製作所
山本農薬株式会社
ライオンかとり株式会社

(五十音順)

昭和51年5月20日印刷 昭和51年5月31日発行
防虫科学 第41巻-II 定価 ¥ 1000.
個人会員年2000円 団体会員年3500円 外国会員年U.S.\$10
編集者 深海 浩 石井象二郎
606 京都市左京区北白川 京都大学農学部

発行所 財団法人 防虫科学研究所
京都市左京区北白川 京都大学農学部内
(振替口座・京都5899)
印刷所 昭和印刷
京都市下京区猪熊通七条下ル

“SCIENTIFIC PEST CONTROL”
BOTYU—KAGAKU

Bulletin of the Institute of Insect Control

Editor Sankichi TAKEI

Editorial Board

Toshio FUJITA, Hiroshi FUKAMI, Yuzo INOUE, Shoziro ISHII,
Minoru NAKAJIMA, Fumiki TAKAHASHI, Shozo TAKAHASHI, Sunro UTIDA

CONTENTS

Originals

10. The Resistant Levels of the Houseflies to Several Synthetic Insecticides at Garbage Dump in Tokyo.
Akifumi HAYASHI, Satoshi SHINONAGA and Rokuro KANO.....57
 11. Fate of Insecticide Used on Paddy Fields for Controlling the Vector Mosquito of Japanese Encephalitis Epidemics.
Osamu MAEDA, Tadashi MIYATA, Hachiro HONDA and Tetsuo SAITO.....60
 12. Effect of Altozar, a Juvenile-hormone Analogue on the Mustard Aphid, *Lipaphis erysimi* (Kaltenbach)
O. S. BINDRA and Darshan SINGH.....65
 13. Cultivation of Intracellular Microorganisms of *Ptyelus sexvittatus* Walker (Cercopidae, Homoptera) with Special Reference to Antibacterial Drugs.
Absar M. KHAN.....67
 14. Some Juvenile Hormonal Activities of Methoprene to the Overwintering Adults of the Oriental Horned Wax Scale, *Ceroplastes pseudoceriferus* Green.
Masaharu KAMEI and Shoji ASANO.....71
 15. Studies on the Food Habits of Rats III. Feeding Preferences of Wild Norway Rats in Various Habitats.
Yasunosuke IKEDA, Yuichiro TABARU,
Yohsuke YUYAMA and Kiyohisa NAGANUMA.....75
 16. Threonine Accelerates the Oögenesis in *Musca domestica*.
Yoshiaki KONO.....78
- Abstracts82

Published by
THE INSTITUTE OF INSECT CONTROL
Kyoto University
Kyoto, Japan